

福井工業大学

# 後援会会報

Fukui University of Technology 2013

平成25年4月15日発行

福井工業大学  
後援会

46

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号  
電話(0776)29-7864  
FAX(0776)29-7891  
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

- 2 平成24年度 学位記授与式
- 4 平成25年度 入学式
- 6 【特集】社会システム領域
  - 1. 建築生活環境学科
  - 2. デザイン学科
  - 3. 経営情報学科
  - 4. 産業ビジネス学科
- 10 研究室を訪ねて
- 12 本学に赴任して
- 13 インターナショナルセンター活動報告
- 14 がんばってます
  - 平成24年度理事長賞受賞者
  - 平成24年度学長賞受賞者
  - 創成科学賞
  - 特別奨励金
- 16 卒業研究展・卒業制作展
- 18 就職活動支援
- 19 クラブ紹介
  - 馬術部
- 20 各クラブの主要戦績
  - 平成24年度 体育部会
- 21 社会に貢献
- 22 平成24年度 定期総会・講演会・地区懇談会のご案内  
＜講演会＞保護者のための就職活動セミナー

申し込みはお早めに【お申し込み期限 5月10日(金)】

平成二十四年度

# 学位記授与式

三月十五日午前十時から、平成二十四年度福井工業大学の学位記授与式が、早春の晴れやかな雰囲気の中、福井県知事ご名代の福井県総務部企画幹山富士夫様はじめ多数の来賓を迎えて、金井講堂において行なわれた。

城野学長から、大学院修士課程一七人、工学部三二五人に学位記が授与された。

つづいて、城野政弘学長、金井兼理事長から次のようなお祝いとはなむけの言葉が述べられた。



学長  
城野 政弘

皆さんの勉学と研究を支えてこられました、ご家族やご関係の皆様にも感謝いたしますとともに、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、大学生活において、専門分野の勉学を通じた知識や経験の蓄積とともに、皆さんの一生の財産となる数多くの出会いを通して大きく成長されました。そして今後は、社会の様々な分野に進まれ、活躍されることと存じます。皆さんの進んでいける社会は、昨年末の政権交代以来、少し明るさを取り戻し、不況脱出に対する希望も持てるところでありますが、まだまだ多くの課題を抱えています。グローバル化の進む中、諸外国の追い上げや格差社会の拡大、地球温暖化や深刻なエネルギー問題という大きな社会問題は依然として解決されないまま残っています。資源の豊かなない我が国が、これらの諸問題を克服し、諸外国と競争しつつ共生し、かつ本当に安全で安心な社会

を築いていくためには、我が国でなければ出来ない、高い科学技術を基盤とした、持続可能で付加価値の高いものの作りやそれに関連する産業の発展、あるいはセーフティネットの構築を進めていかなければなりません。「技術創造立国」を掲げ、ものの作りで発展してきた我が国ではありますが、経済性や効率を追求してきた従来のやり方を繰り返すのではなく、わが国を取り巻く、文化、経済、産業、福祉等あらゆる分野を考えつつ、技術開発において、新しい価値を創造し、将来を見据え大胆に改革していくことが必要です。

そしてこのような新しい社会を作り出してしていくのは、皆さんのような若者にしかできないことであり、技術革新を進展の駆動力とする我が国においては、工業大学を卒業される皆さんへの期待が大きいものであります。そしてこの期待の中、皆さんに身につけていただきたい素養は、本学の教育モットーとして第一に上げている「創造力」であり、またそれを補完する「人間力」「共生力」であります。

このことは、在学中も繰り返し申し上げてきたことであり、いままら繰り返し返す必要もないかと思いますが、「創造力」とは、新しい問題に挑戦し、論理的、創造的思考力を通して、新しい技術、知識、価値を作り出していく能力です。常に自分で考える力を持ち、知識を応用する力をもつて、能動的に行動することが大切で、これが新しい社会を築いていく原動力となるのです。「人間力」とは、広い視野と豊かな教養、倫理観を身につけ、ものごとを広い立場から考え、人として正しく判断できる能力です。また、「共生力」とは、まわりの人とコミュニケーションをとりながら、他者とともに生きる力です。

また、まだまだ厳しい世の中であり、年八月にロンドンで開催されたオリンピックやそれに続くパラリンピックでの日本選手の活躍は日本中を元気づけたことと思います。オリンピックでは、金メダルこそ七個と予想を下回ったものの、今までの最高となる三十八個のメダルを獲得するという活躍でした。三連覇という女子レスリングの活躍などもありましたが、特に大会前にはあまり期待をされていなかった、卓球やボクシング、アーチェリーなどでメダルが獲得できたことは、黙々と練習に励み、精進した結果かと、その努力に敬意を表する次第です。また京都大学の山中教授がiPS細胞の研究で、ノーベル医学・生理学賞を受賞されました。現役の若い教授がこのような素晴らしい賞を受賞されたということは、現在のわが国科学技術の高さを示すものとして、医学者のみならず広い分野の科学者・技術者を勇気づけています。しかしながら山中教授の輝かしい研究成果も、初めから順調に達成されたものではなく、何度も失敗や回り道を重ねつつ、その経験を活かしたどり着いた結果だと話されています。

もちろん皆さんが進まれる道の多くは、スポーツや科学者でないでしょう。昨今の就職状況から、必ずしも自分の第一希望でない分野に進まれる方もいるかと思いますが、しかしながら、どのような道に進まれようとも、これらの社会を発展させていくためには、工学を学ばれた皆さんの活躍に期待するところが大きいものであります。本学の教育目標は、地域で活躍できる人材の育成にあります。希望される道に進まれる方はもちろん、そうでない方も、その立場や置かれた環境で、何が社会にとって重要であるかを考え、あきらめず、障害にぶつかっても、それを超える努力を重ねて行っていた

だいたいと思います。

また一方で、一昨年の東日本大震災からの復興、福島第一原子力発電所の事故からの復旧は依然として進まず、まだまだ苦しく、不便な生活を送っておられる方々も多くいらっしゃいます。卒業される皆さんも、この震災を忘れることなく、被災地の復興に対し、各人のできる範囲での支援を、息長く継続していただきたいと思います。そしてこの震災は、われわれ技術者に対しても、安全で安心な社会を築いていくことの大切さを、大きな課題として提起しています。

そして、勉学は大学時代だけで終わるのでありません。これからが本当の意味での自分のための勉強が始まります。大学を卒業していく皆さんに、「学問の進め」の話をするのは、少し奇異な感じを持たれるかもしれませんが、大学にいる間は、学問すなわち勉学に励むのは当たり前で、皆さんも建学の精神に則り、人間性を養い、科学技術の研究に努めてこられました。しかしながらこのような努力はなにも在学中にかぎるのではなく、これから進まれる社会においてこそ、勉学を深めていただきたいとの思いを込めて、福沢諭吉の「学問の進め」にふれてみたいと思います。

この書は、人は生まれながらにして皆が平等であることを意味する「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」という言葉で始まることは皆さんもよく存じることだと思います。しかし皆さんはそれに続く言葉をご存知でしょうか？現代語に直しますと「しかしながら、広く世界を見渡してみると、賢い人もおろかな人もいます。貧しい人も富める人もいます。また、社会的に地位の高い人も、低い人もいます。こうした雲泥の

(次頁へつづく)





理事長 金井 兼

先ほど、城野学長から博士・修士・学士の学位を受け取りにられました三三二名の卒業生の皆さん、そして多数ご来学を頂きました保護者ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、本日は年度末のお忙しい中、福井県知事のご名代として福井県総務部企画官、先ほど理事長賞を受けられましたモンゴルからの留学生のためにモンゴル大使館のバヤスガラン領事、議会中大変お忙しいところ吉田伊三郎県会議長様、県内高等学校の校長先生、本学の名誉教授、卒業生の皆さんが在学中大変お世話になりました関係の皆様、このようにご来賓多数のご来学を頂きまして、厳粛かつ盛大に学位記授与式が挙行できますことを、学園の理事会と教職員を代表致しまして、心より厚く御礼を申し上げます。

私の不注意から一昨日より風邪をひきまして熱が下がらなく、今朝解熱剤を打って参りましたので、お聞きのとおり声が聞き辛いと思いますが、卒業生の皆さんにはお許しを頂きたいと思っております。本日卒業されます三三二名の半数が県外出身の学生さんですから、恐らく今日この学位記授与式を終えると、二度とお会いすることができない学生さんです。ですから今日はなんと、学位記授与式に参列したい一心で、そして皆さんに一つだけお伝えし

学んできた科学技術に自信と誇りを持って、  
これからの日本を支えてほしい

たいという思いでここに参りました。

昨今の日本社会の現状は大学生・大学院生ですら、どういう状況にあるのかはよくよくお分かりのことと思います。経済情勢をはじめ多様な外交問題や防衛問題がありますが、今日日本が抱えている一番大きい問題は少子高齢化という大問題です。いわゆる若い人の人口が少なくて年を召されたお年寄りの人口が多い、つまりピラミッドが反対の形になっている状態です。これは何を意味するかと言えば、それだけ日本という国の国力、国の力というものが低下していることを表しているのです。本日学位記を受けられていよいよ皆さんは明日から羽ばたいていけるのですが、皆さんの双肩その両肩に担う責任の重さは、私たちの年代が社会に出た時と比べると二倍にも三倍にもなっているということです。日本は何の資源もない国家ですが、ようやく一昨日の新聞に日本の近海で海底に埋蔵されていたエネルギーが発見されたという非常に明るいニュースが報道されました。が、世の中を走っている車のガソリンをはじめ、今日皆さんが身に付けていらつしやる洋服や着物の素材、今朝召し上がったこれら朝食等々、日本はこれらのほとんどを海外からの輸入に頼ってこの国を成り立たせているのです。

それだけに日本という国は非常に素晴らしい一面を持っている。そんなもうい国がどうして今のようない世界にない経済大国になったかという、それは偏に皆さんがこの数年間学んで来られた科学技術の力によるものです。第二次世界大戦が終わってから日本は一面焼け野原となり、何もない、まさに東日

本のような状況でありましたが、そこから見事に復興し立派な国家として先進国として世界が羨むに発展したその原動力は、皆さん一人一人が学ばれた科学技術です。皆さんが学んでこられた科学技術に自信と誇りを持って、どうかこれからの日本を支えて下さい。何としまして皆さんのご縁を孫の世代にこの日本を残してあげられるように、今後も普段の努力を期待したいと思っております。

残念ながら、日本ではこうした理工系離れが進んできています。理科離れはなぜか。皆さんは四年間或いはそれ以上にこの大学で勉強し学び、経験して分かったでしょう。それは理工系は辛い。工業活動や実験は沢山あり、それら一つ一つに対してノートを書かなければならない、学部で言うならば四回生になれば卒業研究に迫り、自分のやりたかった遊びやアルバイトもできない。もうこんな厳しい学部学科には進みたくないと言うのが理工系一つの原因であります。しかし時代は繰り返し、理工系が、科学技術が、日本で世界で脚光をあびる日が必ず来ます。そうでなければこの日本は持たない、国家としての体をなさない。科学技術あつての経済であり、経済あつての科学技術ではない。皆さんは科学技術を学んでこられた日本にとって貴重な人材です。どうかその自信と誇りを持ち、皆さんの好きな言葉で言うならばプライドを持って、これからの人生を生きて抜いて欲しいと願います。

皆さんの人生はこれからであり、いよいよ社会に出るという時に、縁起でもないと思われるかもしれませんが、人生は順風満帆毎日ではありません。山あり谷あり、良い事があれば悪い事もあり、楽しい事があれば辛い事もあります。だけど、悲しい時辛い時にこそ諦めないこと。今の日本人に

とって一番悪いといわれる事は諦めること、直ぐに諦めることです。皆さんは決して諦めることなく、輝かしい未来が待っている、輝かしい未来は自分の普段の努力で創るという信念を持って、これからの時代を力強く歩んで頂きたいと心から願っております。皆さんの将来に幸多きことを、幸多き人生であることを心から祈念し、学位記授与式の告示と致します。



(前頁より)

差と呼ぶべき違いはどうしてできるのだろうか」と問いかけ、その違いは、「学ぶか学ばないかによってできるものである」と明確に述べています。このことは、これから始まる社会人としての生活においてもいえることです。平均寿命八十歳の時代において皆さんはまだその四分の一の人生を過ぎたにすぎません。残り四分の三の人生においてこそ、目標を達成すべく勉学を続けていくべきです。大学で身につけた考える力、知識を応用する力、また人間として生きる力を絶えることなく磨きつつ、建学の精神に謳う、人類社会の福祉に貢献することを念頭に学び続け、努力していったきたいと思っています。

最後になりますが、健康に留意され、それぞれの進まれる道で、充分に力を発揮され、活躍されんことを祈念して、学位記授与式の式辞といたします。



平成24年度卒業生  
寄 贈



学位記授与式当日、卒業記念品として「ボードパーティション」二十八セットが贈られた。



# 喜びの新工大生 平成二十五年入学式

平成二十五年入学式は、四月五日、雲ひとつない快晴の下、多数のご来賓、保護者の皆様が見守られる中、新入生が出席して行われた。

まず、森島洋太郎学長は、来賓の方々へのお礼に続いて、新入生に対するお祝いと挨拶として次のように述べられた。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。桜の花の開花とともに、工学部新入生五四四名、大学院工学研究科博士前期課程新入生一八名、合わせて五六二名の皆さんをお迎え出来ることは、福井工業大学にとって、この上ない喜びであります。教職員一同、皆さんを心から歓迎します。

新入生の皆さんには、本日から福井工業大学の学生として、自信と誇りを持ち、希望に満ちた第一歩を踏み出してください。

福井工業大学は、「全てを学生のために」をモットーとして掲げる大学です。皆さんの中には、複数の大学に合格され、どの大学に進学しようかと悩まれた末に、福井工業大学を選ばれた方も居られると思いますが、全ての新入生の皆さんに、福井工業大学に進学して良かった、と満足していただけるよう、私たち教職員一同、皆さんのために全力を尽くすことを約束します。

さて、福井工業大学は、昭和二十五年に創設された「北陸電気学校」を前身として、昭和四十一年に福井の地に設



年創設された「北陸電気学校」を前身として、昭和四十一年に福井の地に設

立され、地域と共に発展を遂げてきた大学です。先ず、皆さんには、福井工業大学の「建学の精神」をよく知っていただきたいと思ひます。福井工業大学の「建学の精神」は、大学の設置母体である学校法人金井学園の「建学の精神」そのものであります。それは、「悠久なる日本民族の歴史と伝統とに根ざした愛国心を培い、節義を重んずる人格の育成、科学技術の研鑽に努め、以て人類社会の福祉に貢献する」と、非常に明快です。日本の歴史と伝統を正しく理解し、自国を愛する健全な精神と、人格が円満で高い道徳心を身に付けた社会人、さらに、多様で急速な科学技術の変化にも柔軟に対応できるような高い工学の基礎知識と専門知識を身に付けた技術者、そして、科学技術を通して人類社会に貢献する高い志を持った人材の育成が、福井工業大学の「建学の精神」に基づく基本理念です。

国内外を問わず、私達は、大きな変化のまっただ中に置かれています。二十一世紀は「知識基盤社会」とあると言われています。知識基盤社会とは、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性が増している社会という意味です。そのような時代だからこそ、大学が果たすべき役割がより重要視され「建学の精神」に基づいて、健全な人格を身に付けた実践的な技術者を育ててきた福井工業大学への社会の期待は、ますます高くなっているのです。

このような激しい変動の時代に、皆さんは、自ら道を切り拓いていかねばなりません。それには、何事にも臆することなく勇敢に立ち向かい、前進する「力」を養う必要があります。大学は、皆さんに、そのような「力」をつけていただき、それを鍛え、磨いていただく場でもあります。社会は、皆さんが、そのような「力」を身につけて、次世代社会を担うことができる人材に育たれることを期待しています。

「力」とは具体的にどのような力なのか？ 本学では、それを「創造力」「人間力」「共生力」の三つの力と呼んでいます。「創造力」とは、課題を探究する能力、論理的に考えることができる能力、そして、何か新しいものを創り出すことができる総合的な能力を指しています。大学という学びの場は、教えられるという受け身ではなく、自ら主体的に学び、考えるところです。何事にも知的な好奇心を持ち、そこに潜む問題を自ら発見し、それを解決するには、自分の持っている知識や経験をどのように活用すればよいのか、常に考える訓練を通して、「創造力」を養ってください。次に、「人間力」とは、人として正しい判断と正しい行動ができる能力であり、それは、広い視野、豊かな教養、倫理観、自己管理能力、社会的責任感などに裏付けられた能力のことを指しています。物事を一面的に見るのではなく、多角的な視点から見ることにより、正しい判断ができる力を養ってください。三つ目の力「共生力」とは、社会との関わりの中で他者と共に建設的に生きる力であり、それは、コミュニケーション能力、協調性、社会貢献への志などに支えられた能力を指しています。先生方や友人たちとの対話や意見交換を通じて、異なる意見や異なる立場を理解する力を養ってください。大学は学びの場です。大学で学べることは学問だけではなく、課外活動からも沢山の貴重なことを学ぶことができます。



大学は学びの場です。大学で学べることは学問だけではなく、課外活動からも沢山の貴重なことを学ぶことができます。

このような「ボーダーレス」の時代に、企業が求める人材像は大きく変化しつつあります。本学は、皆さんが卒業後、国際舞台で活躍できる、そして、企業の求める人材に育っていただくための教育に力を入れています。まず、重要なことは、国際的な視野を養うとともに英語によるコミュニケーション能力をしっかりと身に付けることです。そのために、学部新入生の皆さんには、新しい英語教育プログラム「SPEC」に従って、英語会話力の育成と強化に特化した特別英語教育を、一年生から四年生まで継続して受けていただきます。「SPEC」とは、Special Program for English Communicationの略号です。皆さんがSPECの所定の単位を取得して卒業される頃には、グ



ローバルな舞台で、英語で仕事ができる人材に成長されているはずだ。

ここで、本学における学士課程教育におけるカリキュラムの特徴に触れておきたいと思います。「学士課程教育」とは、皆さんには耳慣れない言葉かも知れませんが、学部四年間の教育のことです。皆さんは、四年間で所定の単位を取得すると「工学士」の学位が授与され、それが、つまり卒業ということでもあります。皆さんが進まれる学科における専門知識と技術を習得することだけが、皆さんが福井工業大学に入学された目的であってはなりません。二十一世紀の「知識基盤社会」において、グローバルに活躍することが期待されている皆さんには、専門分野だけでなく、幅広い分野の知識を習得し、問題を大局的に捉える能力を身に付けていただく必要があります。そのために、本学では、専門分野の教育だけでなく、教養分野の教育にも等しく重点を置いている、ということをお心に銘じていただきたいと思います。

教養分野教育は「人間教育」と「工学基礎教育」から成りますが、「人間教育」は、人間としての生き方、日本や世界の歴史と文化、コミュニケーション能力など、幅広い教養を身に付けていただくとともに、「人間力」を醸成するための教育です。また「工学基礎教育」は、幅広い工学に共通した基礎となる知識を習得するとともに、「創造力」を養うための教育です。皆さんには、工学基礎教育を通して、しっかりと基礎学力を養っていただきたいと願います。基礎学力は、スポーツに置き換えますと基礎体力のようなものです。基礎体力を付けておかなければ、きつい練習に耐えることが出来ず、従って、高い技術レベルに到達することができません。それと同じように、専門分野教育において高度な専門的知識

識や技術を習得するために、基礎学力をしっかりと身に付けていただく必要があるのです。

学びの日々の中で、皆さんは挫折を経験することがあると思います。「挫折の数だけ強くなれる」という言葉がありますが、その言葉を信じて、決して逃げたり、諦めたりすることなく、愚直に困難と向き合い、ひた向きの努力を続けてください。後になって振り返って見ると、苦しかった中にも、一歩一歩、確かな前進を続けてきた自分に気づくはずです。繰り返しですが、決して諦めてはいけません。

次に、工学研究科に進学された皆さんにも、一言申し上げます。皆さんは、学士課程の卒業研究において、指導教員から研究テーマが与えられ、研究の進め方や問題解決の方法論について懇切丁寧な指導を受けられた結果、今では、それぞれの分野での「専門家」の域に近づかれた方々です。しかし、皆さんに是非お願いしたいことは、狭い分野の専門家になることを決して急がないでいただきたいということです。ある特定の分野を深めることは、確か



に重要なことではありますが、大学院生のうちは、与えられた研究テーマに閉じこもることなく、広い視野を忘れずに、常に広く「学ぶ」ことを心がけ、将来に備えて、応用力に富んだ、幅のある専門知識と技術を身に付けることに心掛けていただきたいと希望します。

二十一世紀の「知識基盤社会」では、最先端で高度な専門知識と技術を身に付けた技術者や研究者への社会の期待が益々大きくなっています。その期待に応えるべく、高い志を持って、さらなる研鑽を積み重ねていくべきです。学部入学生の中には四年間は、大学院博士前期課程に進学された皆さんには二年間ですが、長いようで、終わってしまった一瞬です。一日一日を大切に、何事にもひたむきな努力を惜しむことなく、有意義で充実した大学生活を送ってください。そして、将来の夢を描き、その夢の実現に向かって力強く踏み出してください。

本日、入学された五六二名の皆さんとそのご家族の皆様方に、今一度、心からお祝い申し上げますとともに、新入生の皆さんの立派な成長を心より祈念して式辞とします。

次いで、金井兼理事長は「今日の佳き日、晴れの入学式を迎えられた大学院生・工学部学生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。また、ご両親やご家族の皆様方に心からお祝い申し上げます。

この工学部の門を叩かれ、工学部の門を潜れた時点で、皆さんは科学者としてのスタートを切られました。日本は『ものづくり』や『技術開発』から目を背けようと、ここ数十年來、月日を無駄に過ごしてきました。しかし考えて頂くとお分かりのように、日本は第二次世界大戦（太平洋戦争）の後、敗戦国として焦土と化してしまいまし

た。この焦土と化した国家が、今このように繁栄しているのはどうしてか。また、本日の入学式が開始する一時間程の間に、日本の平均株価が約五百円値上がりしましたが、これだけの経済大国になったのはどうしてか。経済大国として成長した原因は『ものづくり』『科学技術』にあるのです。資源を持たない日本は石油や鉱物資源をはじめとする様々な物を輸入して、日本の英知を結集した技術を用いて製品を開発し、それらを海外に輸出して、まさに日本経済を成長させてきたのです。

ところが近年、日本は『ものづくり』から目を逸らし続けています。その結果長い長い経済不況に陥ったと言っても過言ではありません。しかし、現在日本はようやく経済を取り戻そうとしています。今こそ日本が忘れていた『科学技術』『ものづくり』を復活させる時なのです。

時あたかも、少子高齢化が進み、この二十一年間に皆さんの年齢の十八歳人口が半分に減りました。今後益々若い人の人口は減り続けます。そうなるとうずと科学技術を勉強される皆さんの双肩にかかる責任は重くなります。皆さんが当大学を卒業されて社会で活躍される頃には、好むと好まざるとに拘わらず、世界と対等に、それ以上に渡り合わなければならない時代が来ます。

その時代に社会はどのような人材を必要とするのか。国際社会に英語力は絶対が必要であり、外国の文化或いは風習や慣習を理解し得るだけの広い心も必要です。しかし、総括的に考えた時、単に言葉が喋ればいい、単に外国の事情が理解できればいい、という問題ではなく、日本人・国際人として国際社会に通用する教育を受けたこと、また高等教育を受けたことに対する自信と誇りが皆さんに求められるのです。なおかつ、各企業が逞しい人物

であること  
を求める  
時代が必ず  
やって来ま  
す。今日大  
から始まる  
大学生活にお  
いて、学問  
は当然のこと  
ながら、  
逞しい人間  
に成長され  
るよう自己研鑽に励んで頂きたいと強く願います。

先程、学長の話の中に挫折の話がありました。大学生活において講義を受けた実感を進める中では、分からない事が多々あり必ず失敗もあります。それは小学校・中学校・高等学校で学んできた内容と違う内容を学ぶからです。分らない事、失敗することは当たり前にあり、肝心なのは失敗を恐らず失敗しても次は成功させ、分らない事は次は分かるようにすることです。どうか失敗を恐れず、分らない事を恥じることなく、勇猛果敢に大学生活を送ってください。大学生活で経験する様々なことは、将来社会に出てから血となり肉となり必ず生きてきます。この事を信じて積極的に多くの事に取り組んで、自分自身を逞しく育んでください。

さて、学部は四年間、大学院の修士課程博士課程合わせて五年間となります。平均寿命八十数年の人生においては、四年間・五年間という僅かな時間ですが、この期間は皆さんにとって大変貴重な時間です。この貴重な時間を決して無駄にすることなく、挑戦する気構えを持って、福井工業大学で逞しく成長してくれんことを祈念し、また、これからの日々、楽しく充実した学生生活を過ごされんことを心から願います。」と、お祝いの言葉を述べられました。



## 1

## 建築生活環境学科



建築生活環境学科主任 吉田純一

◆一昨年三月十一日に東北太平洋沿岸を襲った大地震と大津波、福島第一原子力発電所の事故に伴う大災害については、今も皆さんの心や目に焼き付いていることでしょう。あれから二年を経過しようとしているのに現地での復興や再生は遅々として進まず、多くの人が生まれ故郷や我が家を離れ、仮設住宅での生活を余儀なくされています。

復興・復旧が遅れる原因としてももちろん政府や行政の確かな対応がなされていないこともありますが、地域やまちづくりなど、社会基盤あるいは社会システムに関わる分野に秀でた技術者が少なく、適切な方向性を確立できないことにも一因があると考えられます。建築や土木の分野は、人々がこうした災害に対して安全で、安心でき、かつ良好な環境のもとで豊かに暮らせる生活空間すなわち都市やまち、地域を創りだし、それを持続していくことが大きな使命といえます。

◆本学の建築生活環境学科は、東日本大地震が発生した直後の平成二十四年四月、それまでの建築学科と土木環境工学科を改編、統合して設置されました。一学年の定員六十五名、教員十四名からなる学科で、建築技術設計コース、生活空間・まちづくりコース、環境防災コースの三コースからなっています。

なかでも生活空間・まちづくりコースは、人同士や人との・情報との結びつきから成り立っている地域コミュニティに主眼をおきながら安全で快適な生活空間を構築する知識や技術を学ぶコースです。これからの地域やまちづくりにとって必要不可欠な、建築・土木の両分野を広く見通せる技術者や行政マンの養成をめざしています。まさに時宜を得たコースといえます。

また、建築技術設計コースは従来の建築学科を基盤として再編されたコースで、住宅から学校や美術館などの公共施設、さらに超高層ビルなどの大規模な建築まで、あらゆる種類の建築に関わる知識や設計を含む技術を工学的にとらえられる建築技術者の養成をめざしています。本学の



学生による町なみ調査（永平寺町門前にて）

目玉でもある伝統木造建築に関わる教育・研究もこのコースに含まれています。

一方、環境防災コースは、土木環境工学科を基盤としながら、特に防災に主眼をおき、頻繁に発生している自然災害から人が将来にわたり、安心して暮らせる社会基盤や社会システムの構築に関わる技術者の養成をめざすコースです。自然と共生し、災害に強い町や都市づくりを学び、自然災害から人の生活を守り、持続可能な社会づくりを追及していきます。

以上のように、本学建築生活環境学科は、従来の建築技術者や土木技術者だけでなく、生活空間・まちづくりに関わる技術者も含めながら、建築と土木の両分野に精通した技術者の育成を大きな目標としています。この目的に添うように、カリキュラムもコースを横断できる編成しています。

◆スタート年であった平成二十四年度は準備不足もあつて定員充足には至りませんでした。しかし、平成二十五年度は七十二名が入学。設立から三年目を迎え、本学建築生活環境学科はいよいよ確かな歩みを刻み始めようとしています。



他大学と共同の設計作品公評会





デザイン学科主任 前田博司

# 2 デザイン学科



えちぜん鉄道七タアート電車

デザイン学科は、平成二十一年にスタートした新しい学科です。本学のデザイン学科は、工学部の良さを生かしながら本格的にデザインが学べる学科として、従来の建設工学科建築学専攻空間芸術コースと経営情報学科メディアデザインコースを母体とし、新たにプロダクトデザインのデザイナーや専門家を教員として招聘して、この学科ができました。工学部に所属するメリットを生かし、実際の社会で役に立つ技術を身につけることをめざして、ものづくりの精神を基盤に置いた教育を行っています。

新しい価値観を提案する創造的なコンセプトを魅力的に表現するデザインに重点が移っています。デザイン学科では、こうした視点に立ち、建築デザインを軸としてインテリア・家具・ランドスケープなどの周辺領域を扱う住環境デザイン、工業製品のデザインを軸としたプロダクトデザイン、コンピュータグラフィックスを軸として映像やインタラクティブなコンテンツデザインを扱うメディアデザインの、3つの領域に関する専門教育の実践と、工学と芸術の融合をめざす作品の制作や研究活動を通して、美しく快適な人間生活の創造に携わるデザイナーやデザインに関する人材の育成をめざしています。

施設としては、大学一号館七階と八階を改修して、教員の研究室に隣接するデザイン実習室（スタジオ）としました。また、木工・金工などの工房（SSLデザイン工房）も完成し、道路に面した展示スペースも設けました。

毎年、一年間の学習成果を作品としてまとめ、それを発表する進級制作展を開催しています。平成二十四年度は完成年度を迎えたので、四年生の卒業制作展となりましたが、三年生以下の作品も



SSL 工房での実習作業

同時に展示しました。

また、えちぜん鉄道の車両を、七タをテーマとした現代アート作品に仕上げて運行する「七タアートプロジェクト」や、福井市との相互連携協定の一貫として中山間地域の上味見地区の活性化事業、バスのラッピングデザインなど、多くのプロジェクトに、学生有志が挑戦しています。先生方のアドバイスを得ながら、制作した作品は、新聞やテレビなど、多くの報道機関から取材を受け、高い評価を得ております。

今後も、デザイン学科では、地域で活躍できるデザイナーやデザインに関わる職業人の育成に力を注いで行きます。



実習作品（ベンチ）の発表会

## 3

## 経営情報学科



経営情報学科主任 松岡博幸

経営情報学科は、工学部の中では文科系の色彩の強いユニークな学科です。マーケティングや簿記・会計といった経営分野と、プログラミングや情報セキュリティなどの情報分野との両面を学ぶことで、社会で必要とされる幅広い知識と応用力を獲得できるのが特徴です。進歩の著しい情報社会に柔軟に対応するための基礎となる知識や技術と共に、ビジネスに必要な経営感覚と倫理観を身につけた、実社会に貢献できる人材を育てています。

本学科は、経営システムコースと情報システムコースの二コースからなります。

経営システムコースでは、経営学や会計学といった、企業が長期に亘って存続し発展するための基礎知識を修得させ、企業が直面する諸問題を現実的に解決していくマネジメントスキルを養成します。そのため、基礎科目の学習に加えて、自らの力で問題解決へと導く数多くの演習や実習科目を配置しています。さらに、学生の総合的能力を向上させるため、コンピュータ並びに簿記・会計関連の資格取得について授業や課外指導を通して全面的にサポートしています。このような環境の下で学生の中には税理士や公認会計士を目指す者も現れています。平

成二十一年三月に本学科を卒業した根来君は、在学中に磨いた簿記・会計の知識をさらに深めて、現在までに税理士試験の五科目中、「簿記論」「財務諸表論」「法人税法」の三科目に合格しており、税理士試験合格の快挙までもう一歩です。本人の研鑽によるところ大ですが、在学中の基礎勉強が大変役立ったとのことでした。

情報システムコースにおいては、今日の情報通信技術（ICT）の発展が社会のあらゆる分野に大きく関わっていることから、卒業生が幅広い分野で活動することを念頭に置いた教育を行っています。

例えば、関連する教育・研究として、環境とICTでは、水資源におけるライフサイクルアセスメントを考えることで上水道と雨水併用について地域性を考慮した最適化を試みています。他方、高齢化医療とICTでは、今日、わが国の年間二〇万人以上が罹患する脳卒中に対して、ICTを用いた片麻痺患者を主な対象とする上肢リハビリ支援ロボットとそれに実装するリハビリメニユーの開発を行っています。現在開発しているロボットは、ディスプレイを見ながら麻痺側上肢でロボットアームを指示通りに動かし麻痺の改善をはかります。（図参照）。

また、プログラミングや情報科学に興味を持つ学生に対し、ソフトウェアコンペティションへの出展やロボカップサッカー大会への出場を奨励しています。本年度も福井県ソフトウェア優秀賞や、ロボカップサッカーシミュレーション3D部門で日本大会準優勝、世界大会ではベスト11に入賞する結果を残すことができました。このような結果は、本コースが情報処理学会情報処理教育委員会によるカリキュラム標準J07に沿ったカリキュラム構成を採用していることによるものと考えます。

私たち学科教員は、これからの社会が必要とする産業を見据え、関連する専門分野の知識・技術だけではなく、一人の社会人として、望ましい倫理観を有する人材の育成をこれまで以上に追及し、目指していく所存です。



上肢リハビリ支援ロボット





産業ビジネス学科主任 野村康則

# 4 産業ビジネス学科

平成二十三年度に設立したばかりの学科で第一期生が今年三年生となります。工学部の中にあつて文系的要素の強い全国的にも大変ユニークな「文理融合」が本学科の看板です。特にスポーツ系のコースを設けたことにその特色があります。

二年次から「地域共生ビジネス工学コース」と「スポーツビジネス工学コース」という2つの専門コースに分かれて教育を行います。いずれのコースにおいても、社会で求められる十分な実務スキルの育成を教育の柱としています。工学部という恵まれた環境にありますので、高校時代に理数系科目に触れる機会が少なかった学生にとつても、理数系の基礎を再度学びながら、ビジネス実務の素養を身に付ける、というのは将来企業人として仕事をやる上で大変有意義であると思います。こういう恵まれた環境で勉学にいそしめる喜びを味わって欲しいものです。

「スポーツビジネス」という名称は未だ日本では一般に定着していませんが、現在は野球・サッカー・テニスやゴルフ始め世界的なスポーツブームにあり、スポーツ関連のビジネスが急速に拡大しています。江戸川大学社会学部の澤田和彦氏によればスポーツ産業の市場規模の



坂井市長様と懇談する本学科の学生

合計は十一兆円を超える規模と言われており、スポーツ用具・スポーツ各種施設・フィットネス事業などにこれから幅広い人財が必要となつてきます。十一兆円という金額はちよつど消費税5%の税収入に匹敵するほどの大きな規模と言えます。また2018年に開催されます福井国体成功裏の開催に向けて既に県を挙げて準備が始まつており、本学科としても微力ながらその支援を行いたいと思います。

いよいよ今年十二月から始まる就活で第一期生には100%近い内定率を目指しています。特にスポーツビジネス系

での高い就職率に期待を持っています。私の長いビジネス経験から、スポーツ経験のある企業人は、厳しい環境の中でも確実に頭角を現し、企業内でコミュニケーション力とリーダーシップを発揮し成功する人が多く見受けられます。

本学では国際社会で活躍する人材の育成に力点を置く方向でカリキュラムが組まれています。本学科には独自の英語専門の教員がおり、放課後ボランティアで英会話教室を開いて希望者に指導を行っています。これからはグローバルに活躍する学生が出てくると思います。

また日本経済の復興が叫ばれている中、我々教員の経験などが少しでも地域社会のお役に立てれば、という気持ちでおります。可能な範囲内ではありますが、企業様との共同研究始め、大学と地域の皆様との連携強化が図れば良いと思いますので何かお役に立てることがあります。たら遠慮なくお申し付け頂きたいと思っております。



芦原で風力発電の説明を聞く学生

## 「研究室を訪ねて」

電気電子情報工学科・教授  
西田 好宏



# いつでもどこどこでも、 検索・コミュニケーションのための 空中手書き文字入力の研究

最近、クラウド・サービスという言葉をよく聞くようになり、いつでも、どこでも、ふと思いついたアイデアなどをメモとしてクラウドに保存したり、日々の出来事をつぶやきあったりする機会が増えています。このようなクラウド・サービスや検索サービスなどを使うとした時に、重要なのが文字入力です。

パソコンに文字を入力するためにはキーボードを使う必要がありますが、今ではスマートフォンが普及して、タッチパネルで文字が入力できるようにになりました。そのタッチパネルの次の入力方法として、西田研究室では「空中手書き文字入力」の研究を行っています。(写真1)

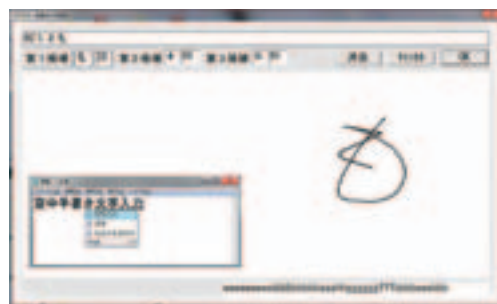
「空中手書き文字入力」を実現するためには、①手の動きを検出するセンサの技術、②検出した動き情報から文字を認識する「文字認識エンジン」の技術、③認識した文字に対して訂正や選択、変換などを行って文章を作成するパソコンの「IME」に相当する技術、の3つの技術が必要になります。



(写真1) 空中手書き文字入力研究の様子

最初に注力したのは、動き情報から文字を認識する「文字認識エンジン」でした。空中で字を書く場合には筆跡が見えないため正確な字を書くことが難しく、ペン先の上げ下げ、即ち1画、2画というストロークの区別も非常に困難になります。そこで、1つの文字の筆跡を一筆連続書きとして、その相対的な移動方向のみに着目して認識する方法を採用しました。その結果、ひらがな、数字、アルファベットを1文字単位で認識出来るようになりました(写真2)。

次に、パソコンの「IME」に相当する機能を実現するため、簡単な動



(写真2) 1文字単位で一筆書きを認識



(写真3) 空中操作例

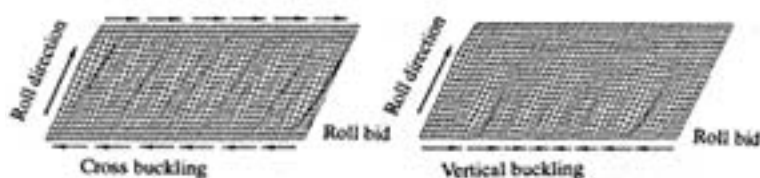
きで「Back Space」や「Enter」等に対応する操作を定義しました。これにより、認識した文字を基に候補の選択や、確定、削除などが可能になり、汎用的に文章を作成することが出来るようになりました(写真3)。

今後、手の動きを検出する各種センサと組合せてシステムを構築、実用化を目指します。現在、検討中の主な用途は、メガネ型コンピュータや携帯の入力デバイス(写真4)、タッチ入力のための注視を不要にして安全に文字を入力できるカーナビ、検索可能なデジタルサイネージ等です。さらに、わずかな動きでも文字を認識できる意思伝達支援装置に応用することで、いろいろな障害や病気で思ったように情報を伝えることが困難な人達を支援したいと考えています。



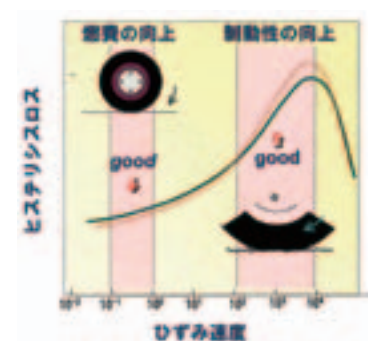
(写真4) メガネ型携帯のシステム例



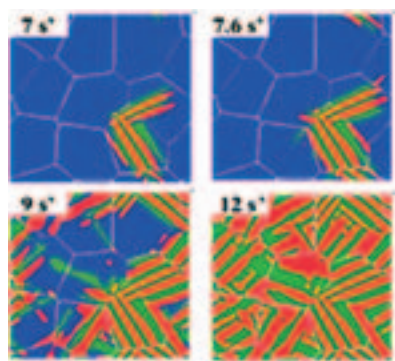


(図1) 薄板の圧延過程において発生する様々な欠陥の予測

あらゆる分野のものづくりの基盤となっている機械工学の中でも、材料の力学に関連した領域は、安全・安心な持続的発展をもたらす社会の構築に必要不可欠であります。研究室では、様々な材料・構造の強さ、材料の成形性の予知、材料・構造の高機能化をはじめ新たな材料開発に必要な、材料が大きく変形したときに発生する様々なスケールの不安定現象の予測、多種多様な材料のミクロ・マクロスケール大変形応答の評価法とその応用に関連した研究を推進してきました。計算機の高速・高度化に合わせて、地球シミュレータから計算機京の利用を視野に入れた研究を行っています。



(図2) 燃費と制動性の向上をもたらすタイヤゴム材の高機能化研究



(図3) 結晶レベルの相変態の進展予測

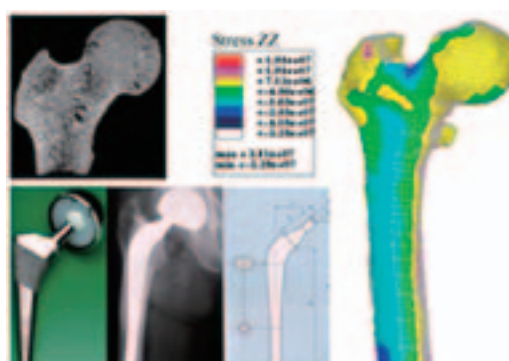
得られた研究成果は、様々な金属材料の成形過程中に発生する、欠陥の予知に適用され、設計指針も提供しております。図1は、薄板の圧延過程における縦座屈、横座屈の発生予測に用いた例です。近年、研究対象を金属材料から、ゴム、ポリマー、生体へ拡大しております。高分子材の応答の一層正確な予知を目

指し、新たに非アフィン分子鎖網目モデルを提案し、実験と数値シミュレーションによって、広範な変形状態を予知可能であることを実証しております。この研究の、最も成功した工業的な応用例として、図2のタイヤゴム材の高機能化があります。充填されたカーボンブラックの体積含有率や分散形態の制御により定常走行時の燃費を抑えつつ制動特性の改善をもたらすタイヤ材の開発を可能としております。

材料は各種環境下において相変態が発生し、新たな特性を有する材料となります。温度変化や変形によっ

でも相変態が発生します。液相から固相への相変態、固相から別の固相への相変態などを対象として、変態現象の予測と、新たな相の特性予測も行っております。これらの研究は、金属から高分子材に至る多様な材料を対象としており、図3に示すような加工中に発生する相変態の予測や熱処理過程の適切な制御によって所定の特性を持つ材料の創生に応用できます。

生体を対象として、図4に示す骨の成長を考慮した人工装具の設計や自然界にあるものの機能と形態の関係を研究し人工的に好ましい材料あるいは構造物を作ること視野に入れた研究も推進しています。最近の卒業研究では、木材や竹の断面の不均質構造とその力学的な環境適応性、昆虫の各部位の機能と形態についての研究を行っております。今後、安全・安心でかつ環境への配慮をした材料・構造の設計に、自然物の持つしなやかな特徴を力学的に評価した結果を生かす研究を推進していく予定であります。



(図4) 海綿骨の生長・消滅を取り入れた人工大腿骨骨頭の設計

# 力学を通して見る 材料のミクロ・マクロスケール応答の 評価と高機能材料の創生の研究

# 本学に赴任して



原子力技術  
応用工学科  
**来馬 克美**  
教授

平

成二十一年三月に未曾有の被害をもたらした東日本震災が発生し、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故が発生しました。決してお起してはならない事故が発生し、多くの地域住民に避難生活等を強いている事態は本当に残念です。早期の復興が望まれます。

昨年四月から本学にお世話になっており、原子力技術応用工学科で、福島第一原子力発電所の事故を踏まえた、地域の原子力安全を守る技術者の育成事業で、カリキュラムの高度化や国際人材の育成に取り組んでいます。特に、今後十年以内に原子力発電所の稼働を計画しているベトナムの人材育成に協力できるよう取り組んでいます。原子力を取り巻く厳しい環境がなお続いています。学生と一緒に乗り越えられるよう頑張っています。

私は、平成二十二年十月に「君は原子力を考えたことがあるかー福井県原子力行政四十年私史ー」を上梓しました。そのあとがきの一部を引用します。

「原子力の立場は、常に危ういバランスの上に立っている。ガバナンスだけ考えると、リスクを

押しつけるなど言われてしまう。リスクだけ考えると、電気を使うなど言われてしまう。(略) 莫大なエネルギーを生み出す原子力は、潜在的な危険性が実に大きい。もしも原子力利用に安易に喝采を叫べば、軍事利用という最悪の事態にも至りかねない。かといって、人知の結晶である原子力を使わないのも愚かな姿勢だろう。地球温暖化や化石燃料の枯渇が問題になっている現在、原子力以外に有効な代替エネルギー技術は存在しない。まして、原子力エネルギー抜きで経済発展しろと発展途上国に要求するのは、あまりにも酷な話だ。軍事転用という深刻な危険性を忘れることなく、その巨大なエネルギーを平和に利用することが、人類の英知の結晶である原子力に課せられている。原子力の光と影を忠実に映し出すことが重要である。その原子力がある福井県で、私たちは今日も暮らしている。」



原子力技術  
応用工学科  
**西本 和俊**  
教授

我

が国は震災以後の経済不況や近い将来の超高齢化社会を迎える不安など諸問題を抱え、先

のにくい状況にあります。このような不安を打破するために、やはり将来を担う若者の活躍に対する期待がより大きくなり、大学など教育機関の果たすべき役割もますます重要になると思われます。昨今、社会では人材育成の重要性が再認識され、政府も各領域の人材育成プロジェクトを展開しています。その主たる対象の一つにグローバル社会に対応した人材育成があります。資源小国である我が国が反映を持続するためには、価値あるモノを輸出することにより資源、エネルギーや食物を輸入する原資を確保するという基本は今後も変わらないといえます。流動的な世界の動きに対応してこの基本を維持して行くにはグローバルなシーンで活躍していく人材の育成が強く求められています。本学でも、これに対応すべく語学教育を充実した新カリキュラムが組まれ、新年度より実施されます。グローバル化に対応する人材として要求される要素として重要なのは語学だけでなく、専門領域におけるしっかりと知識や経験が必要なのはもちろんですが、もう一つ重要な要素があります。それは、「マチュアリティ」です。日本の若者は欧米先進諸国の同世代の若者に比べ、この点において劣っているように思われます。社会事象や自分の人生の将来に対してしっかりと考え方をもち、いろいろなシーンで大人の対応ができ、また、必要な場合に堂々とした態度で自己表現できる能力、それが「マチュアリティ」です。

私は、大阪大学で三十五年間の教員生活を終えた後、昨年四月より本学に就職いたしました。大阪大学時代はどちらかといえば研究を通じての教育を実施してきましたが、本学に就職して職務の重心が教育にシフトし、より密に学生と接し、彼らの教育ができることを新たな喜びとしています。学生諸君が将来社会に出た後、海外でも活躍できる人材になることを目指した、教育指導を今後も実施していこうと思っております。



# インターナショナルセンター 活動報告

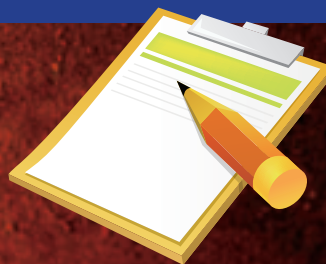
## 英会話カフェ

インターナショナルセンターでは週に2回、5限目に「英会話カフェ」を開いています。お茶やお菓子を食べながら、リラックスした雰囲気の中で外国人教員と毎回様々なテーマで話が盛り上がります。インターナショナルセンターには数名の外国人教員が常駐しており、昼休みや授業の合間でも気軽に英会話を楽しむことができます。



## TOEIC 対策講座

TOEIC (トイーック) とは、英語のコミュニケーション能力を測るための資格試験で、多くの企業が社員の英語力を測定する手段として採用しています。そのため、TOEIC のスコアを取得することは就職活動の際に大きなアピールポイントとなります。インターナショナルセンターではキャリアサポートの一環として希望者を対象に TOEIC のスコアアップを目的とした対策講座を開講しています。



## 留学生受入推進・支援

現在、中国からの留学生が本学で学んでいます。インターナショナルセンターでは、留学生が安心して日本で大学生活を送れるように、生活相談や精神面でのサポートを行っています。さらに講義内容の理解がスムーズに進むように日本語学習支援にも力を入れています。また福井での留学生活が充実したものになるように、スキー体験や日本文化に触れる機会を設けています。



## 多文化体験

インターナショナルセンターでは、一般の学生と留学生、外国人教員との交流を目的としたイベントを年に数回開いています。平成24年度は、5月にティーパーティー、10月にハロウィンパーティー、12月にクリスマスパーティーを開催しました。ティーパーティーでは、紅茶、中国茶、日本茶を飲み比べながら、イギリス人と中国人の先生からそれぞれの国のお茶文化に関するレクチャーを受けました。ハロウィンパーティーでは、グループごとに分かれて、日本人学生、留学生、外国人教員が一緒になって実際にかぼちゃのランタンを作りました。参加学生は日本語、中国語、英語が飛び交う、まさにインターナショナルな雰囲気の中で多文化を体験しました。





# がんばってます

## 理事長賞・学長賞

三月十五日の学位記授与式において次の学生が受賞しました。

### 理事長賞

建設工学科建築学専攻

バイルサイハン トウグルドウル

建築学科

島木 梨紗

建築学科

齋藤 弘崇



齋藤 君



バイルサイハン  
トウグルドウル 君



島木 さん

### 学長賞

電気電子情報工学科

安念 卓哉

機械工学科

林 拓未

土木環境工学科

白木 雅大

建築学科

田地 建太



白木 君



安念 君



田地 君



林 君

## 創成科学賞

「創成科学」は、通常の教室での授業や実験とは異なり、学生自身が自らの考えに基づき、それまでに修得した知識の創造的な応用によって、自分が選んだ課題を解決していく授業です。その結果、優秀な研究を行った学生に対して、その努力と成果を表彰します。今回の受賞者は次のとおりです。

### 創成科学

【平成二十三年年度後期】

#### ◎優秀賞

デザイン学科 四年

水野 絵理

「近年のキャラクターの

傾向について」

経営情報学科 三年

笠川 慎矢

「クイックソートの安定化」

原子力技術応用工学科 三年

畠山 巧

「指標生物の探索」

※受賞者の学年は平成二十四年度の学年





平成24年度特別奨励金（クラブ成績）

【クラブ奨励金】

〔個人〕

No	クラブ名	大会名	大会成績	金額
1	カヌー部	第2回全日本学生カヌー 長距離選手権大会 C-1 15000m	5位	¥10,000
2	馬術部	第67回 国民体育大会 馬術競技 (成年女子 馬場馬術競技)	8位	¥10,000
3	馬術部	第68回 国民体育大会 馬術競技 (成年女子 自由演技 馬場馬術競技)	7位	¥10,000
4	馬術部	第48回 全日本学生馬術 女子選手権大会	4位	¥10,000

〔団体〕

No	クラブ名	大会名	大会成績	金額
1	カヌー部	平成24年度日本カヌー スプリント選手権大会 男子カヤックペア 500m	3位	¥30,000
2	カヌー部	第48回全日本学生カヌー スプリント選手権大会 K-4 1000m	8位	¥10,000
3	カヌー部	第48回全日本学生カヌー スプリント選手権大会 C-4 1000m	7位	¥10,000
4	カヌー部	第48回全日本学生カヌー スプリント選手権大会 K-1 Relay 4×500m	7位	¥10,000
5	カヌー部	第48回全日本学生カヌー スプリント選手権大会 C-1 Relay 4×500m	6位	¥10,000
6	馬術部	平成24年度 全日本学生馬術大会 3種目総合	8位	¥10,000
7	馬術部	第55回 全日本学生賞 典馬場馬術競技大会	6位	¥10,000

【規程抜粋】

特別奨励金 対象となる大会成績

	対象となる大会成績	
A：10万円	オリンピック出場	世界大会出場
B：5万円	インカレ優勝	国体優勝
C：3万円	インカレ準優勝又は3位	国体準優勝又は3位
D：1万円	北信越又は中部地区3連覇	全国大会ベスト8

原子力技術応用工学科  
宇宙情報科学科  
環境生命化学科  
経営情報学科  
デザイン学科

清水 恒輝  
野口 政揮  
平林 裕一郎  
久島 徹也  
加藤 聖也



清水 君



平林 君



加藤 君



野口 君



久島 君

◎努力賞

機械工学科 二年

「良い潤滑剤はどれか？」

屋武 誠

「温泉卵の作り方  
〜卵について知る〜」

大津 咲

◎優秀賞

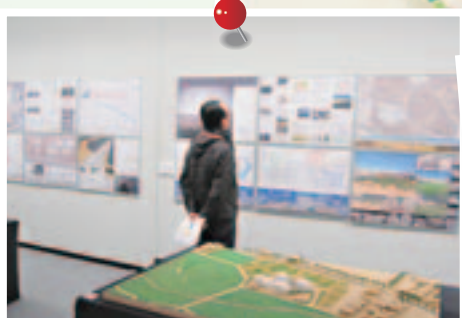
デザイン学科 二年

「アツと驚く新しい紙の世界」

西川 和貴

【平成二十四年度前期】









# 卒業制作展

Graduation Production Exhibition

(初めての卒業生の成果を発表しました)

## 就職活動支援

# 「就職ガイダンス」の充実!



### テレビ・DVD プレーヤーを活用した就職支援

後援会のご協力（資金提供）を頂き、キャリアセンター内に「テレビ・DVD プレーヤー」を設置しました。

学生が、いつでも自由に「模擬面接」や「企業トップセミナー」、「就職対策講座」などのビデオを視聴することができます。

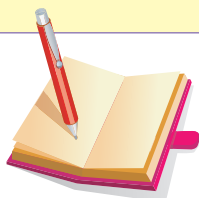
就職支援課では、今後も1年生からスタートする「進路・就職支援計画」の充実を図ってまいります。



## 就活手帳 2013

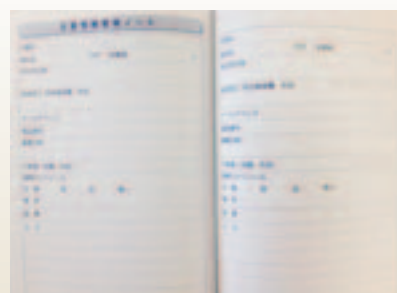
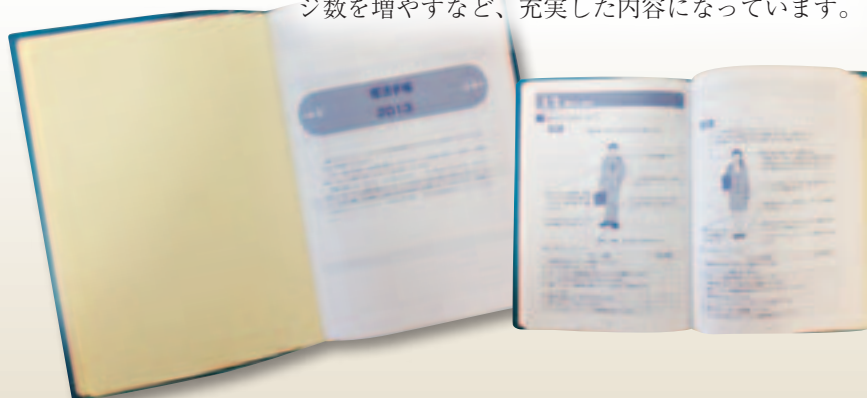


### 企業情報管理・企業エントリーリスト・スケジュール表など就職活動記録の内容充実



今年も、後援会のご協力（資金提供）を頂き、「就活手帳2013」を発行することができました。

就職が内定した学生からの「要望・意見」も取り入れ、求人へのアプローチに必要な企業情報の管理やエントリー企業の記録、さらに、就職活動に関するスケジュール表のページ数を増やすなど、充実した内容になっています。







本学馬術部は、愛馬と共に全日本学生馬術大会優勝を目標として日々練習に励んでおります。馬術を通してスポーツマンとしての礼儀やモラルを身につけ、チーム内での競い合いからも技術面・精神面での向上を図ります。

日々の活動は、早朝5時に馬たちの餌やり・馬房掃除などの厩舎作業から始まります。練習では、自分自身はもとより、馬の心理状態や体調などにも気を配りながら人馬のトレーニングに励みます。授業終了後には、再び厩舎へと集まり馬たちのケアを行います。他の競技との大きな違いは、やはり馬と共に競技するスポーツということであり馬たちの体調管理は欠かすことができません。当然、生き物の世話に休日はありませんが、多くの時間を馬と過ごすことで信頼関係を築いていきます。

平成24年度は、6月に行われた中部学生馬術大会において総合優勝を果たし、11月に行われた全日本学生馬術大会の出場権を獲得致しました。全国の舞台では、全日本学生賞典馬場馬術競技大会にて団体6位入賞を果たしました。また、個人では全日本学生馬術女子選手権において第4位入賞を果たしました。

今年度は、後援会の皆様に昨年度以上の好成績をご報告できるよう日々の活動に取り組んで参りますので、今後ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第48回全日本  
学生馬術  
女子選手権大会  
第4位入賞  
吉田なな美  
(産業ビジネス学科 3年)

馬術を通してスポーツマンとしての礼儀やモラルを身につけ、技術面・精神面での向上を図る。



# 各クラブの主要戦績

平成二十四年度

## ◆剣道部

◇第54回北信越学生剣道選手権大会  
(5月13日) 優勝 富田 成慈  
準優勝 高垣紳二郎  
9位 辻内 勇介  
◇第60回全日本学生剣道選手権大会  
(7月7日～8日) 出場 富田 成慈  
男子個人戦 出場 辻内 勇介

◇第60回全日本学生剣道優勝大会  
(10月28日) 出場 高垣紳二郎

◇第50回北信越学生剣道新人大会  
(11月25日) 優勝 稲垣 拓也  
男子団体戦 優勝 川合明日香  
女子団体戦 優勝 栗林 由香

◇第50回北信越学生剣道新人大会  
(11月25日) 優勝 稲垣 拓也  
男子団体戦 優勝 川合明日香  
女子団体戦 優勝 栗林 由香

女子個人戦 優勝 稲垣 拓也  
ベスト8 川合明日香  
3位 栗林 由香

## ◆硬式野球部

◇平成24年度北信越大学野球春季リーグ  
(4月8日～5月20日) 優勝  
◇第61回全日本大学野球選手権大会  
(6月12日～13日) 出場  
◇第8回三連盟主座決定戦  
(10月26日～27日) 出場

## ◆馬術部

◇第67回国民体育大会  
(9月30日～10月4日) 8位 吉田 かな美  
成年女子 馬場馬術  
自由演技馬場馬術 7位 吉田 かな美  
◇第62回全日本学生賞典障害飛越競技  
大会(11月1日～7日) 出場 吉田 かな美  
個人 木村 唯人  
太田竜之介  
◇第55回全日本学生賞典馬場馬術競技  
大会(11月1日～7日)

団体 6位  
個人 出場 村木 唯人  
高桑 景太

◇第55回全日本学生賞典総合馬術大会  
(11月1日～7日) 3種目総合団体 8位  
◇第84回 全日本学生馬術選手権大会  
(12月8日～9日) 個人 出場 村木 唯人  
加藤 駿

◇第48回 全日本学生馬術女子選手権  
大会(12月8日～9日) 個人 4位 吉田 かな美

## ◆陸上競技部

◇第86回北信越学生陸上競技対校選手  
権大会(5月19日～20日) ハンマー投 5位 小島 正弘  
1500m 出場 田中啓太郎  
棒高跳 10位 井上 和謙  
10000mW 7位 脇本 望  
◇第43回北信越学生陸上競技選手権大会  
棒高跳決勝 4位 4m20 井上 和謙

ハンマー投

決勝

5位

40m49 小島 正弘

砲丸投決勝

8位

10m21 杉本 光應

10000mW

6位

47/10 71 仲村 新太

10000mW

決勝

2位 53/06 28 脇本 望

## ◆バレーボール部

◇第43回春季北信越大学バレーボール  
選手権大会(5月17日～20日) 準優勝  
◇第60回秋季北信越大学バレーボール  
選手権大会(11月1日～4日) 優勝

## ◆少林寺拳法部

◇第41回少林寺拳法北陸学生大会

(11月18日)  
段外単独演武の部

優勝 加藤 雅也  
準優勝 糸井川 玲央  
5位 花立 優里

段外組演武の部

3位 加藤 雅也  
4位 糸井川 玲央  
5位 花立 優里

## ◆カヌー部

◇第48回全日本学生カヌー Sprint  
選手権大会(8月28日～9月2日) 1000m K4 8位 青木 稜・高橋 拓磨  
湯口 拓美・大谷内貴司  
1000m C4 7位 長谷川拓也・箕浦 大貴  
鈴木 志央・矢野 雄大  
4×500mリレー K1 7位

◇平成24年度日本カヌーSprint選  
手権大会 兼 2013海外派遣  
選手一次選考会(9月6日～10日) 500m K2 3位 湯口 拓美・大谷内貴司  
200m K2 4位 湯口 拓美・大谷内貴司

## ◆拳闘部

◇中部学生ボクシング秋季大会  
(11月3日～11日) フライ級 ベスト4 坂田 浩

## ◆ゴルフ部

◇中部日本放送杯マッチプレー選手権  
大会(6月12日～14日) 3位 古市 一真

## ◆水泳部

◇中部学生選手権水泳競技大会  
(6月30日～7月1日) 200m バタフライ

200m個人メドレー 2位 河嶋 泰佑

1500m自由形 5位 糸井川 玲央  
7位 長谷川 僚

400m自由形 8位

400m自由形メドレーリレー 7位  
◇第86回日本学生選手権水泳競技大会  
(9月2日～4日) 個人メドレー1400m 出場

◇第88回日本学生選手権水泳競技大会  
(9月7日～9日) 200m バタフライ 出場 河嶋 泰佑  
400m個人メドレー 出場 竹田誠之介  
200m自由形 出場

## ◆なぎなた部

◇第67回国民体育大会  
(9月30日～10月2日) 団体戦 出場

◇第51回 全日本なぎなた選手権大会  
(8月4日～5日) 演技競技 出場

演技の部 出場  
女子個人の部 出場  
男子個人の部 出場

## ◆柔道部

◇平成24年度北信越学生柔道優勝大会  
(5月20日) 団体 3位  
◇平成24年度全日本学生柔道優勝大会  
(6月23日～24日) 団体 3位  
◇グランドスラム東京2012  
(11月30日～12月2日) 個人 73kg級3位 島田 祐介  
個人 100kg超級出場  
バヤルサイハン・トゥグルドゥル



# 社会貢献

福井工業大学の  
社会貢献活動と、学生の活躍



## 「未来塾」開講

### ▼サッカー解説者の 松木安太郎氏が熱弁。

平成二十四年度の「未来塾」講演会は、九月二十二日に金井講堂で開かれました。今回の講師はサッカー元日本代表、サッカー解説者の松木安太郎氏。「人生というゲームの中で」をテーマに、聴講者の皆さんへテレビでもお馴染みの熱い口調で語っていただきました。

## 「公開講座、

## 市民ふれあい教室」開講

### ▼公開講座

前期は六月十三日、「新幹線を支える材料・設計技術」をテーマに、機械工学科が中心となり講座を運営。後期は十一月十四日、産業ビジネス学科が担当し「大きく変容する日本のビジネス環境」と題した講座を開講いたしました。

### ▼市民ふれあい教室

平成二十四年五月から、平成二十五年二月にかけて全部で二十三回の地域の皆さま向けの教室を実施。理工学から社会学にいたるまで幅広いテーマで開講しました。英会話や親子プログラミング教室など趣向を凝らした内容も盛り込まれ、多くの方々に「新たな学びの場」をご利用いただきました。



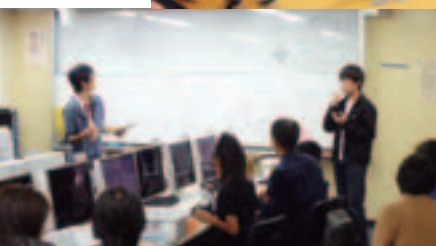
## 「理科の普及」に 学生も一役

### ▼「科学実験キャラバン」・

### 「ロボキャンプ」・

### 「サイエンス・パートナーシップ」・ プロジェクト」など

小中学校や高校の児童・生徒に理科・科学技術の面白さを知っていただくためのさまざまな取り組みに、本学学生も多数協力して、実験のお手伝いや子ども達へのサポートなど、あらゆる場面で活躍しています。学生たちも「教える立場」を経験することで、自身も成長できる場となっております。





information

## 地区懇談会のご案内

平成 25 年度の地区懇談会は、

全 国 4 会 場

福井会場（定期総会）  
東海地区（名古屋会場）  
関西地区（大阪会場）  
北陸地区（高岡会場）

にて開催いたします。

今年度の地区懇談会は、

午前中は、大学後援会・大学同窓会・学園の合同により **講演会・教育報告会**を行ないます。

午後は、例年通りの保護者の皆様と先生方との **個別懇談会**となります。

また、合同で **昼食を兼ねた懇親会**を催し、親睦を深めたいと思います。



# 平成25年度 定期総会及び 地区懇談会のご案内

地区懇談会は、学生の成績・日常生活・就職などの諸問題について、先生と保護者が個別に話し合える絶好の機会です。  
ご都合のよい会場を選んで是非ご出席ください。

- ① 定期総会
- ② 福井地区懇談会
- ③ 全国地区懇談会

## 参 加 申 込 方 法

「平成25年度 定期総会及び地区懇談会のご案内」を  
別便にてお送りいたします。



### ① 投函にてお申し込みの場合

同封の参加申込書を返信用封筒にてお送り下さい。



### ② 電話・メールにてお申し込みの場合

TEL 0776-29-7864

E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp



### ③ ホームページから、MAIL・FAX にてお申し込みの場合

本学ホームページから「参加申込書」をダウンロードの上、メール又はFAXでお送り下さい。

ホームページアドレス

<http://www.fukui-ut.ac.jp/> (TOP > 保護者の方のサイトへ)

E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

FAX 0776-29-7891

**申込期限: 5月10日(金)**

## 定期総会・福井地区懇談会

5/25 **土** 福井キャンパスにて

13:00 ～ **平成25年度後援会定期総会**

### 【議 題】

- 平成24年度収支決算報告、事業報告
- 平成25年度会計予算、事業計画
- 平成25年度 役員改選
- その他

ご都合でご出席いただけない場合は  
「委任状」(別便にて郵送します) **をご提出**ください。

14:00 ～ **個別懇談会**

ご子息・ご息女の学生生活、学業、部活就職活動等、  
どんなことでもご遠慮なくご相談ください。

## 全国地区懇談会

6/2 **日** ～ 23 **日** 全国3会場  
(東海・関西・北陸) にて  
(詳細は次頁に記載)

10:00 ～ **教育報告会・講演会**

学生のキャンパスライフ、就職情報等を大学教職員がお伝えします。

12:00 ～ **懇親会**

同窓会会員の皆様、保護者の皆様と学園役職員・教職員の懇親会  
です。昼食を兼ねてご歓談いただけます。

13:30 ～ **保護者懇談会**

学業・就職・大学生活等お気軽にご相談ください。



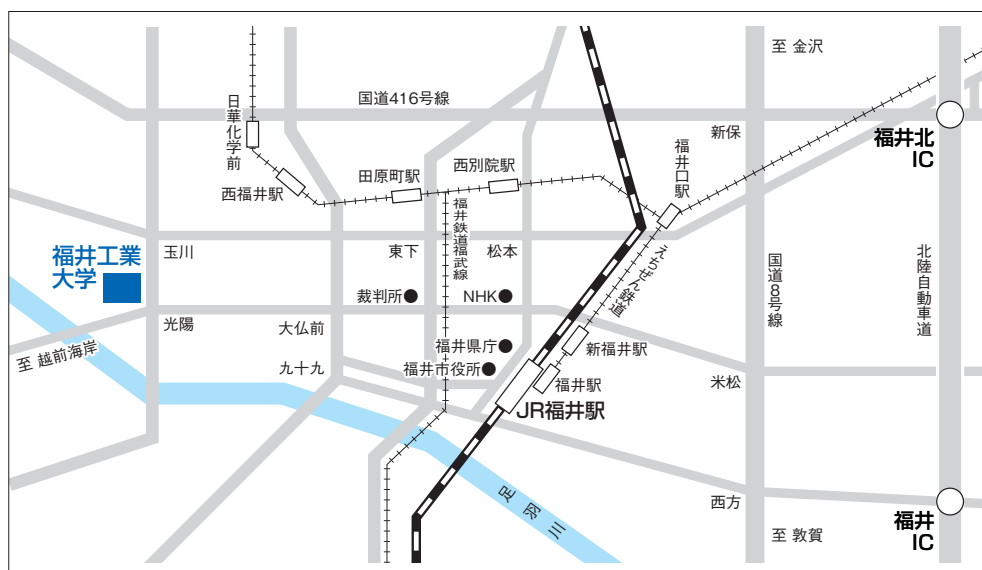
# 定期総会・地区懇談会 開催案内

地 区	日 程	会 場	電話番号
福 井	5月25日（土） 総会終了後14:00～	福井工業大学 福井市学園3-6-1 <a href="http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/introduction/access/index.html">http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/introduction/access/index.html</a>	0776-29-7864
東海地区	6月2日（日） 開会10:00～	名古屋ガーデンパレス 愛知県名古屋市中区錦3-11-13 <a href="http://www.hotelgp-nagoya.com/access/index.html">http://www.hotelgp-nagoya.com/access/index.html</a>	052-957-1022
関西地区	6月9日（日） 開会10:00～	大阪ガーデンパレス 大阪府大阪市淀川区西宮原1-3-35 <a href="http://www.hotelgp-osaka.com/access/index.html">http://www.hotelgp-osaka.com/access/index.html</a>	06-6396-6211
北陸地区	6月23日（日） 開会10:00～	高岡地域地場産業センター 富山県高岡市開発本町1-1 <a href="http://www.takaokajibasan.or.jp/center/#access">http://www.takaokajibasan.or.jp/center/#access</a>	0766-25-8283

※駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通機関等でのご来場にご協力をお願いします。

## 福 井

## 福井工業大学



JR「福井駅」  
京福バス4番のりば  
「学園線」乗車  
福井工業大学前下車  
〈所要時間約10分〉  
※無料駐車場あり

## 東海地区

## 名古屋ガーデンパレス



地下鉄東山線「栄駅」

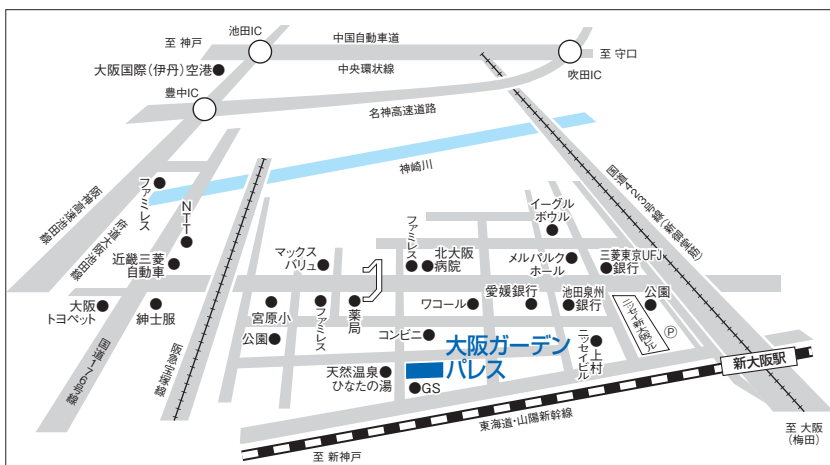
①番出口から直進2つ目の信号左  
〈徒歩5分〉

※駐車場をご利用の場合、正面玄関から  
地下へお回り下さい。

収容台数に限りがあります。満車の場合は  
近隣駐車場(有料)となります。

関西地区

## 大阪ガーデンパレス



JR・地下鉄「新大阪駅」より徒歩10分、  
シャトルバス利用 約3分

シャトルバス乗り場:

地下鉄御堂筋線「新大阪駅」②号出口左

シャトルバス時刻:

每時 05、20、35、50分

## 北陸地区

## 高岡地域地場産業センター



JR「高岡駅」→

バス④番のりば加越能バス「五十里線」

「富大高岡キャンパス・

二上団地・城光寺線」

熊野町バス停下車〈約10分〉→

徒歩〈約3分〉

※無料駐車場あり



# 【平成25年度】 学 年 暦 (工学部)

## 前 期

平成25年

4月1日(月)

4月5日(金)

4月6日(土)～12日(金)

4月15日(月)

4月12日(金)～13日(土)

4月19日(金)～20日(土)

5月中旬～下旬

8月7日(水)～9月16日(月)

9月17日(火)～19日(木)

9月17日(火)～20日(金)

学 年 開 始

入 学 式

全体オリエンテーション

学科別オリエンテーション

前期受講登録ガイダンス

Web受講登録講習会

「自然と科学」集中講義

授 業 開 始(全学年)

永平寺参禅研修(1年生学科別)

永平寺参禅研修(1年生学科別)

五 月 祭

夏 季 休 業

「自然と科学」集中講義

後期受講登録ガイダンス

## 後 期

9月24日(火)

10月12日(土)～14日(月)

10月15日(火)

12月26日(木)

～平成26年1月5日(日)

平成26年

1月6日(月)

1月中旬

1月上旬～1月下旬

1月29日(水)～3月31日(月)

3月15日(土)

3月31日(月)

授 業 開 始

大 学 祭

大学祭 閉会式

冬 季 休 業

授 業 再 開

学園 成人式(式典)

卒 業 研 究 発 表

春 季 休 業

学位記 授与式

学 年 終 了

## 福井工業大学 人事異動

(新着任) 平成二十五年四月一日付

環境生命化学科	鈴木 晋一郎	建築生活環境学科	齋藤 敏明
環境生命化学科	蔵田 浩之	建築生活環境学科	横山 勉
デザイン学科	三木 隆史	経営情報学科	梅野 正隆
経営情報学科	田中 真由美	産業ビジネス学科	魚崎 勝司
機械工学科	原口 真	環境生命化学科	府川 伊三郎
環境生命化学科	柏山 祐一郎	環境生命化学科	城田 靖彦
基盤教育機構	ジェイソン リー	環境生命化学科	島田 幹夫
基盤教育機構	ダイクス ロバート	環境生命化学科	甲斐 泰
基盤教育機構	デビス クリフトン	基盤教育機構	増田 俊夫
電気電子情報工学科	村橋 俊明	電気電子情報工学科	名越 清家
電気電子情報工学科	内田 健治	建築生活環境学科	中道 義忠
電気電子情報工学科	荒木 智勇	経営情報学科	吉江 勝郎
電気電子情報工学科	笠嶋 善憲	基盤教育機構	安嶋 勝論
機械工学科	城野 政弘	基盤教育機構	中野 民雄
機械工学科	高塚 公郎	基盤教育機構	真鍋 和弘
機械工学科	藤井 博知	基盤教育機構	坂本 裕一
機械工学科	齋藤 年正	基盤教育機構	陳 月子

(退任) 平成二十五年三月三十一日付



福井工業大学  
Fukui University of Technology

# すべてを学生のために

最先端の設備を備え、最先端工学を学ぶステージ。

それぞれの能力・適性・興味に応じて

一人ひとりの人生の可能性を限りなく拡げます。